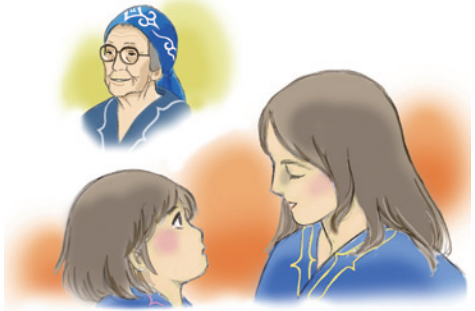




なるほどアイヌ文化トーク
ソノコ de ソノコ

アイヌ文化にどっぷり浸って生きてきた
本田優子(札幌大学副学長)と
村木美幸(アイヌ民族博物館専務理事)が、
その魅力をソノコ(=お便り)形式で語り合います。



イラスト/安田千夏

優子さん、二十年近く前になります
が、一緒に平取の上田トシさんのお宅に
お話を聞きに行ったの憶えていますか？



ウエペケレ(散文説話)を語っていた時に「村木さん、運転してきたんだから疲れちゃうよ。そこで横になって寝てなさい」とトシさんに言われたの。ウエペケレはその語り口が特徴的。淡々とした抑揚のない一本調子だけに、アイヌ語を殆ど解さない私には少々きついものが…。そんな私を気の毒に思い言ってくれたんでしょね。気を遣わせてしまいました。

ウエペケレは、地域によつてトウイタクやウチャシクマなどと呼ばれる昔話や言い伝えのこと。ユカラ(英雄叙事詩)やカムイユカラ(神謡)と同じく叙事的なものです。メロディーやサケヘ(折り返しの言葉)もなく日常会話に近い言葉で語られるよね。

神のウエペケレはカムイユカラを散文で語つたようなものだし、人間のウエペケレも自分の身の上げ体験から「人はどう生きるべきか」といった教訓的な話から怪談のような話まであるの。川下と川上のもののウエペケレでは「昔、正直爺さんと欲張り爺さんがいました…」という花咲か爺さんの話が多く、川下のものが成功した事を川上のものが真似をして失敗するというパターンや滑稽な話も多いんだよね。



上田トシさん——高名な語り手で、しかも人間的にも本当に素晴らしい女性。生涯忘れられませぬね。トシさんの生まれ故郷の平取町ペナコリには、川上マツ子さんと言うこれまた優れた伝承者がいらつしたよね。アイヌ民族博物館にも膨大な音声記録が残されてるけど、私のそのテープを聴いて衝撃を受けたことがあるの。その時マツ子さんは、他人の家を訪問する際のアイヌ式のマナーについて詳しく語られてた。そこで、聴き取りをした学芸員さんがこう訊いたの。「いつごろまで、そういうことをやってたの?」「したことないよ」「だつてそんなに詳しく知ってるでしょ。誰に聞いた?」マツ子さんの答えは、「みんな、ウエペケレに出てくる」。ああ、ウエペケレはアイヌの人たちにとって生活の教科書なんだ、つて心から納得した瞬間でした。

ウエペケレにはアイヌの人たちの道徳観や倫理観が色濃く反映されてるって言われるよね。悪いことをしたら必ず哀れな末路を辿るし、心がけ正しくカムイ(神)を敬って暮らせば幸福な人生を終えられるんだつて。そして、その最高に幸せな人生を象徴する表現が「ポシレシテ」。つまり自分の周りや大地に子どもが満ち溢れているということ。なんだから胸が熱くなっちゃう。ウエペケレの世界は本当に素敵です。



■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学副学長。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族博物館専務理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■安田千夏(やすだちか):神戸市生まれ。日本口承文芸学会会員。趣味が高じて本連載の挿絵を担当。